

教育民生常任委員会

(鹿角市学校給食センター)

9月11日、教育民生常任委員会では「鹿角市学校給食センター」の現地視察を行いました。

当センターは、旧北・南学校給食センターと花輪第一中学校自校式給食施設の3カ所の調理業務を集約し、市内小・中学校等13校へ約2400食を提供する施設として、平成31年4月1日に開設されています。



食の地産地消を推進
(鹿角市学校給食センター)

学校給食は単なる昼食ではなく、「適切な栄養摂取」、「望ましい食習慣」、「明るい社交性」など、教育の一環として提供されるものであり、食を通じて児童・生徒たちの心身の発育を促すことが求められます。これに関連して、鹿角市では「みどりの食料連絡会」の協力のもと、地場産食材を多く取り入れ、子供たちが生ま

れ育った鹿角で収穫された食物や郷土料理を食べる、「たらふくかづの給食」を年5回実施しているとの説明がありました。

一方で、学校給食では一度に大量の調理を行うため、国の衛生管理基準に基づいた調理作業が求められますが、当センターでは、食材の検品や下処理をする場所と、調理・配膳の作業領域が区分されており、また、作業ごとの手洗いやでき上がり時間の管理など、基本的な事項を徹底しているのとのことでありました。

当委員会としては、学校給食が児童・生徒たちの健全な成長のため、当センターが適切に運営されることを期待するものであります。

(派遣委員)

館花一仁 金澤大輔 黒澤一夫
宮野和秀 田口裕 成田哲男

産業建設常任委員会

(史跡尾去沢鉱山「坑外施設」)

9月12日、産業建設常任委員会では「本市観光資源である産業遺産の活用と観光施策について」をテーマに、史跡尾去沢鉱山(坑外施設)の現地視察を行いました。

近代化産業遺産に認定されている史跡尾去沢鉱山は、かつて国内最大級を誇っていた銅鉱脈群採掘

跡を間近で体感できる観光施設です。

当委員会では、7月に長崎県長崎市を訪れ、明治日本の産業革命遺産と観光施策の関連について視察を行いました。尾去沢鉱山においても同様に、産業遺産のさらなるPRにより観光客を呼び込めないかを模索するため視察を行いました。

坑外には、採掘・運搬されてきた鉱石の処理を行う「選鉱場跡」をはじめ、土木遺産に認定されている60メートルの煙突を残す「製錬場跡」など、近代化をうかがい知ることのできる貴重な遺産が多数あり、坑内見学コースはもちろん、坑外施設においても産業遺産としての魅力は十分にあることを確認しました。

(派遣委員)

栗山尚記 田中孝一 吉村アイ
浅石昌敏 中山一男 戸田芳孝



産業近代化を現代に伝える
(史跡尾去沢鉱山 選鉱場跡)

鹿角市議会防災訓練を実施しました

9月19日、いつ起きるかわからない自然災害に対して、市議会としての備えをするため防災訓練を実施しました。

防災訓練では火災を想定し消防署のご協力のもと、火災時における煙の性質についての専門的な説明を受け、火災時に発生する煙を「煙体験ハウス」により身をもって体験しました。

訓練で得た知識などは、市議会として実際の災害時の行動・対応のほか、議員個々の防災意識の向上に役立ててまいります。



煙体験ハウスによる防災訓練 (消防署前)